

<案>

第5次豊橋市総合計画後期基本計画策定市民会議 提言書

私たち、第5次豊橋市総合計画後期基本計画策定市民会議（以下、市民会議という。）委員は、計画策定にあたり、より市民目線の施策を提言するため、28名が集まり議論をしました。

豊橋市を取り巻く環境は、人口減少や少子化の進展、日々変わる経済情勢、また南海トラフ地震など災害発生のリスクなど、ますます厳しい状況にあります。

そのような中、豊橋市において安心して子育てができ、将来の子どもたちが愛着を持ってもらえるまち、地域がにぎわいを取り戻し顔の見えるまち、また都市整備がなされ安全・安心なまちを目指すことが、今の豊橋市には必要です。

そこで市民会議では、行政をはじめ、市民、事業者、団体等がともに豊橋市の未来のために取り組んでいけるよう、以下の8つの観点を第5次豊橋市総合計画後期基本計画に盛り込むことを提言します。

記

- 子ども関連予算は未来への投資
- 多様な人々が関わりあう仕組みづくり
- 団塊の世代は地域の宝
- 地域資源を活かした魅力あるまちづくり
- 環境のシンボルを市民の心に
- みんなで守る地域の安全・安心
- 都市整備の推進
- 弾力性のある行政組織

子ども関連予算は未来への投資

豊橋市は人口減少と少子高齢化が進行しています。

人口減少を食い止めるためには、子ども関連の予算を手厚くし、子どもを産みやすい環境づくりや子育て世代のサポートをする取り組みを推進していく必要があります。人口減少対策と少子化対策は待ったなしです。

○5歳児検診の実施

市の幼児検診は、4カ月、1歳6カ月、3歳の3回実施しているが、発達障がいなどの障がいの把握や子どもへの虐待の把握のために5歳児検診を実施することが有効だと考えます。

＜取り組みのアイデア＞

- ・5歳児検診の実施

○子どものコーディネータ制度

地域の元気な高齢者の様々な経験や知識を活かした放課後教室等の運営により、子どもたちが放課後を安全で安心して過ごせるとともに、地域内での交流が促進されるところと考えます。

＜取り組みのアイデア＞

- ・地域の子ども見守りのコーディネータ制度の設定
- ・コーディネータの育成

○子どもへのまちづくり意識の高揚

法改正により、18歳以上が参政権を持つことになるのを契機に、若い人に自分が住むまちの将来を考える機会の設置やまちづくりへの参画促進してもらうための啓発などの取り組みが大切であると考えます。参政の意識を高め投票に向かうことは、政治への若者の意見反映につながります。

＜取り組みのアイデア＞

- ・市内大学生へのまちづくりや参政に関する意識啓発

○子どもへのスポーツの推進

子どもが自主的なスポーツへの参加を応援するために、サッカーグラウンドやスケート場などスポーツ施設の整備が必要であると考えます。また地域にいるスポーツが得意な人にインストラクターになってもらい、部活動などを含め教える仕組みがあると効果的と考えます。

< 取組みのアイデア >

- ・スポーツ施設の整備
- ・地域にいるスポーツ選手によるスポーツ教室の開設

○優れた能力を持った人からのホンモノ体験

スポーツや芸術分野などで優れた能力を持った人は市内にたくさんいます。子どもたちにホンモノを体験してもらうために、そのような人たちを人材バンクとして登録してもらい教室を開いてもらうような仕組みがあることがないと子ども未来につながりません。

< 取組みのアイデア >

- ・あらゆる分野で優れた能力を持つ人の人材バンク化
- ・ホンモノ体験教室の開催

○子どものインターネットトラブル防止

子どもがインターネットトラブルに巻き込まれることが問題となってきたことから、トラブル防止の対策が必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・インターネットトラブルに巻き込まれないよう出前講座などの実施

多様な人々が関わりあう仕組みづくり

育児の不安から第2子以降の出産を躊躇する家庭や、地域から孤立する外国人家庭の存在、高齢者による介護など、地域には様々な課題が山積しています。地域の課題は身近な地域内で解決することを前提に課題への対応を考えていくことが必要です。

○学校の空き教室(余裕教室)の活用と仕組みづくり

小学校には、空き教室(余裕教室)がたくさんあります。学校の空き教室を活用して、地域にいる人たちが世代を越えて集える「核」とすることが、地域のコミュニティ再生につながります。地域が学校と情報を共有しながら、地域の課題は地域住民が汗をかいて解決すること図り、学校の先生には本来業務に専念してもらうことが大切です。できるところから少しでも改善ができるよう、関係者が一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

< 取組みのアイデア >

- ・学校内に放課後児童クラブを設置
- ・介護が必要な人だけでなく、子どもや、障がい者、高齢者などの見守りをする「豊橋市版地域包括支援センター」の設立
- ・孤立する外国人家庭に対する相談窓口、また日本語教室や時間外学習の学習支援教室などの設置
- ・学校施設を包括的に民間事業者へ管理を委託し、学校は必要に応じて借りるようになる仕組みの検討
- ・学校の地域課題を地域住民と共有し、地域自らが解決するため連絡会議の設置
- ・地域住民や大学生などによる小中学生を対象にした放課後学習支援

○ICTを活用した地域情報共有ネットワークの拡充

在宅医療・福祉統合型支援ネットワークシステム「東三河ほいっぷネットワーク」で、「電子@連絡帳」の運用を開始しています。これらのICT技術を活用した地域情報共有ネットワークの拡充を推進し、地域の課題をみんなで共有することが望ましいと考えます。

< 取組みのアイデア >

- ・「電子@連絡帳」の推進
- ・「電子@支援手帳」を活用し、見守りが必要な子どもや高齢者、障がい者などの情報を共有する仕組みづくり

団塊の世代は地域の宝

豊橋市でも”高齢化”が進んでいますが、元気な”高齢者”は地域の中にたくさんいます。これまで活躍された経験や能力を活かした活躍の場をつくることで、多世代の交流などが生まれ、より地域がにぎやかになると思います。

また高齢者が安心して生活できるような制度づくりが必要であると考えます

○豊橋の未来を支える団塊の世代

団塊の世代の人たちは、これまで日本や豊橋市の発展に大きく寄与してきました。私たちは、団塊の世代の人たちは地域の宝と考えています。これまで培った経験をもう一度、地域活動や子育て支援などでご活躍いただけないかと考えています。

< 取組みのアイデア >

- ・団塊の世代の人材バンクの運営
- ・市役所に「団塊の世代課」の設置
- ・活動内容に応じて行政サービスなどで使える市独自のポイントを付与

○リバースモーゲージ(不動産担保型の老後資金ローン)の導入

高齢者が保有する自宅や土地などを担保に、不動産価値に応じて支援を行うリバースモーゲージは、銀行やNPOなどですすでに取り組みられています。このリバースモーゲージに行政が公社などを設立することで、高齢者にとっては継続した支援を受けることができ、老後の安心につながります。

< 取組みのアイデア >

- ・リバースモーゲージを扱う公社の設置と運用開始

地域資源を活かした魅力あるまちづくり

豊橋市には、豊橋総合動植物公園「のんほいパーク」や、夜空を彩る手筒花火、世界有数の国際自動車港湾である三河港、日本トップクラスの農業産出額を誇る農業など、魅力あふれる地域資源がたくさんあります。

これらの地域資源の魅力を伸ばし、産業や交流がますます盛んになるよう農業やものづくりに携わる人の人材育成や、訪日外国人をはじめ多くの人が豊橋市に立ち寄る仕掛けづくり、農産品の海外輸出、道路などのインフラの整備などが必要であると考えます。

○農業所得を増やす支援策

これから国内のマーケットは、人口減少により縮小することが予想されます。市内の農業者の収益をあげるための支援策が不可欠です。

< 取り組みのアイデア >

- ・6次産業化の取り組みの支援
- ・「豊橋ブランド」として東南アジアをはじめとして海外への販売を強化するための販路開拓
- ・株式会社サイエンス・クリエイトや豊橋技術科学大学、農業関連企業などの共同研究によるIGH(イノベーティブグリーンハウス)プロジェクトでトマトの収穫量を増やした技術を市内の農家への伝承

○地産地消の推進

私たちが食べている農産物の多くは、地元の農家が生産しているものです。新鮮でおいしい農産物を継続的に得るために、地産地消を推し進めます。

< 取り組みのアイデア >

- ・地元の農産物について知るための啓発活動や学校での教育
- ・地元産農産物を販売及び調理する店に対し、認定証の付与

○ものづくり人材の育成

この地域のものづくり企業を支えるために、ものづくりを担う人材育成と高い技術を持つ人を評価する制度が必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・豊橋工業高校や豊橋技術科学大学に通う専門知識を持った若者たちが技術を磨き、地域産業に活かせるような人材育成の仕組みづくり
- ・ドイツのマイスター制度のように高い技術力を持った人を評価する制度の導入。

○まちなか活性化の取組み

豊橋駅前エリアは、東三河地域の交通の結節点であり、より魅力あふれるエリアにするための取組みが必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・穂の国とよはし芸術劇場プラット周辺の周辺整備
- ・「豊橋まちなか歩行者天国」の一部を市内3大学の有志学生に任せた運営

○豊橋市の魅力の情報発信の整備

豊橋市の魅力を市外の人たちに伝えるために、Twitter や Facebook などのソーシャルネットワークを使った情報発信とともに、来豊者がその場で情報発信できるような情報システムの整備が効果的です。

< 取組みのアイデア >

- ・豊橋市公会堂などポップカルチャ愛好者向けの情報発信
- ・三河港の自動車関連企業の工場見学や産業観光ツアー、また、まちなかや商店街の見学ツアーなどの大人向けの社会見学の開催
- ・来豊者が豊橋市の魅力をその場で発信するため、公共エリアでの Wi-Fi の整備と充実

○豊橋市に立ち寄りたくなる魅力づくり

豊橋市は新幹線や在来線の駅、三河港があり、近くには高速道路のインターチェンジがあるなど、広域交通網が発達している一方、訪日外国人をはじめとした市外の人たちにとって魅力がなければ、単なる通過点になる可能性があります。

< 取組みのアイデア >

- ・規制緩和による新車整備センターで、ナンバープレート封印取り付けの納車に関する取組みの促進
- ・地域資源の魅力発信の場になる「あぐりパーク食彩村」のような直売所の施設の整備
- ・豊橋市の駅弁の開発
- ・東三河広域観光協議会などと連携した、豊橋市の地域資源をPR
- ・訪日外国人が訪れたい魅力づくり
- ・滞在するホテル周辺の免税措置のコーナーの設置
- ・海や山など恵まれた自然環境を活かしたグリーンツーリズムやエコツーリズムの促進
- ・ナイトガーデンの期間延長や、BBQ場の設置、気軽に移動できる乗り物などのんびいパークの魅力向上

○豊橋市への愛着を深める

市民が豊橋市の魅力を認識し、愛着を深めることができるよう、豊橋市の製品を買う「BUY 豊橋運動」を展開します。また、「530運動」や手筒花火の発祥地としてPRし、地域外での認知度を高める必要があります。

< 取組みのアイデア >

- ・「BUY 豊橋」運動による、豊橋産工業製品や地元農産物の積極的購入
- ・530 運動の発祥地であることを市外に積極的にPR

○学生の地元密着

これから仕事に就こうとする若者が地元企業に定着するためには、企業風土や特性を学生に十分に理解してもらうことが大切です。

＜取り組むアイデア＞

- ・企業と学生のマッチングを図るための、インターンシップ期間の長期化

○魅力ある三河港の整備

三河港の物流機能を、さらに発揮していくためには、インフラの整備が課題と考えます。また、多くの市民に親しまれる港づくりが課題であると考えます。

＜取り組みのアイデア＞

- ・三河港から高速道路へのアクセス道路の整備
- ・三河港の知名度をあげ、観光拠点とするため、横浜港や神戸港のような多くの人が三河港に立ち寄ってもらうためのにぎわいづくり

○豊川流域圏の交流促進

豊川の水源地域である奥三河の水源地保全への支援や上流域の状況を知るためのイベントなど、市だけではなく流域圏全体で連携する事業に積極的に取り組むことが大切です。

＜取り組みのアイデア＞

- ・奥三河地域の森林整備への支援
- ・上下流の交流をはかるための「流域アースデイ」の開催
- ・鳥獣害被害の軽減のための、関係市町村との連携

人が生きる福祉の充実

市民が快適に生活できるためには、福祉の充実を図ることが必要です。家庭の孤立への対応、障がい者の自立促進、女性の負担軽減など、人が生きる福祉の充実を図ることは、市民の幸福度をあげることに繋がります。

○家庭の孤立への対応

周囲に知り合いがおらず相談相手がない核家族が増えていると感じています。外国人家族を含め、家庭の孤立が進まないよう継続的に行政からのアプローチが必要です。

＜取組みのアイデア＞

- ・家庭の孤立を防ぐための児童訪問の実施

○障がい者の自立促進

障がい者は、何かをしてもらうという立場ではなく、障がい者の自立を支援することが必要です。

＜取組みのアイデア＞

- ・障がい者の就労支援

○女性の負担軽減

仕事や出産、育児、介護など女性に対する負担が昔と比べ大きくなっています。働き方を含め男性の意識改革が必要です。

＜取組みのアイデア＞

- ・男性への固定的性別役割の解消に向けた啓発活動の実施

○附属機関等の女性の委員登用

女性の審議会などの附属機関への女性の委員登用が低い状況です。クオータ制を含めた検討が必要だと考えます。

< 取組みのアイデア >

・クオータ制など附属機関の女性登用率を向上への検討

○ボランティア窓口の統一化

現在ボランティアの窓口は、社会福祉協議会や市民センターなどまとまっていないことから、窓口を一本化することが望ましいと考えます。

< 取組みのアイデア >

・ボランティア窓口一本化

○ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

誰もが快適に使いやすいまちとするために、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進することが必要だと考えます。

< 取組みのアイデア >

・ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

環境のシンボルを市民の心に

530運動は今年で40周年を迎えました。

私たちは、530運動発祥の地であること改めて認識し、環境への取り組みをしっかりと考えることが重要です。市内にある自然の豊かさを象徴する環境のシンボルを市内外へ発信することで、自然あふれる豊かなまち、豊橋のイメージ向上につながります。

○環境のシンボルづくり

市内にある自然を、市民へ発信することで環境意識を高めていくとともに、シティプロモーションのツールとして豊橋市のイメージ向上につなげることが大切です。

＜取組みのアイデア＞

- ・表浜のアオウミガメ、内湾のアサリ、葦毛湿原、吉祥山などの市の自然を象徴するものや、530運動などの環境への取り組みなど、環境のシンボルを情報発信

○530運動の推進

530運動発祥の地であることを改めて認識し、530運動への取り組みを推し進めるべきと考えます。

＜取組みのアイデア＞

- ・徹底的にごみのないまちづくりの推進
- ・継続的に学ぶ場として出前講座などを含めた、530運動の意識啓発の実施

○洋上風量発電の設置

豊橋市は、他都市と比べ太陽光発電の設置量が多い状況ですが、さらに再生可能エネルギーを普及するために、風が強い地域であることを活かした洋上風力発電を設置することで環境への取り組みのシンボルになります。

＜取組みのアイデア＞

- ・三河湾に洋上風力発電の設置

○緑化の推進

市内を緑いっぱいにするために、まちなかや公園、また幹線道路沿いなどで植樹することが大切です。

< 取組みのアイデア >

- ・まちなかや公園などでの中高木の植樹の推進
- ・幹線道路の街路樹の充実
- ・古くなった街路樹の診断の実施

○ごみ減量の取組み

愛知県や他都市と比べ、豊橋市は全体的にごみの量が多い状況です。ごみの減量に努めるために、ごみが多い原因の把握や、ごみの減量に向けた啓発や取組みが必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・ごみの排出量を減らすために、ごみ処理の有料化の検討
- ・資源ごみ分別や水切りしたごみ出しを徹底するための啓発
- ・リサイクルステーションの分散化

○ビンカンボックスの設置継続について

ビンカンボックスは他都市にはない好事例の取組みであることから、継続することを前提に今後のあり方の検討が必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・ビン、アルミカン、スチールカンの分別の徹底の啓発

○食品残さの資源循環利用

市民から出される生ごみなどを、堆肥やエネルギーにしたものを再活用することで、資源の循環利用ができると考えます。

<取組みのアイデア>

- ・生ごみを堆肥化し、資源としての循環利用
- ・豊川バイオマスパーク構想の技術の利活用

○ごみの不法投棄への対応

郊外にごみが不法投棄されるケースが見受けられることから、罰則など取り締まりを強化すべきです。

<取組みのアイデア>

- ・ごみの不法投棄への罰則及び取締り強化

みんなで守る地域の安全・安心

豊橋市は、今後起こりうる南海トラフ地震の被害が懸念されています。有事の際は、行政機関は迅速に動くことができないことが予想されることから、校区などの防災訓練や顔の見える地域で防災対策など、事前に自分たちで対策をしておくことが必要です。

また、安全で安心な生活空間を整備することも地域にとって大きな課題です。既に行っている防犯パトロール活動などを地域で継続的取り組んでいくことが必要です。

○地域コミュニティによる防災対策

地域の防災力の向上を図るために、地域自らが主体的に防災対策に取り組むことが重要です。

< 取組みのアイデア >

- ・地域の防災活動を核にした地域コミュニティの活性化
- ・避難所回覧板による被害状況の把握
- ・防災への取組みの先進事例を PR することによる、防災意識の啓発
- ・町単位での避難所訓練(HUG)や災害図上訓練(DIG)の推進
- ・防災ガイドブックを使った出前講座などの実践
- ・平日昼間に地域にいるのは女性が多いと考えられることから、女性の地域防災への参画促進

○災害時における情報伝達手段の検討

有事の際は、欲しい情報を得ることができないことや情報を発信できないことが予想されます。情報伝達がうまくいかない中で、できる限り情報弱者が出ないように事前の準備や検討が必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・聴覚障がい者や外国人など、災害時における情報弱者への伝達方法(コミュニケーションカードなど)の検討と伝達訓練
- ・市内に通勤・通学する人に対する「ほっとメール」の登録促進

○緊急輸送道路沿いに立地する建物の耐震化の推進

災害時に緊急輸送道路が倒壊した建物などで通行止めにならないよう、緊急輸送道路沿いに立地する建物の耐震化が必要です。

＜取組みのアイデア＞

- ・緊急輸送道路沿いの建物の耐震化

○消防士の技術や体制の強化

市の消防・救急救命体制を維持・強化するために、知識や技術の伝承など人材育成が大切です。

＜取組みのアイデア＞

- ・技術伝承のための人材育成
- ・消防士の適正人数の確保
- ・東三河地域の消防学校の新規設置

○防災施設の点検

防火水槽などの防災施設が、出火時に問題なく使用できるよう点検するとともに、整備を進めることが必要です。

＜取組みのアイデア＞

- ・防火水槽などの防災施設の定期的な点検
- ・文化財付近への防火水槽などの整備

○柳生川などの浸水対策

柳生川や内張川などの浸水対策に取り組むことは、流域の安全・安心のために求められています。

＜取組みのアイデア＞

- ・柳生川や内張川の浸水対策

○交通事故の加害者とならないための教育

子どもが自転車運転中の事故で加害者になる可能性があることから、PTAを含め、学校レベルで自転車運転についての教育を深めることが必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・学校での自転車運転講習の実施

○地域の安全・安心を地域でつくる仕組みづくり

地域の安全・安心は地域自らが作るとの意識をもって、いろいろな世代が関わりあつて取り組むことが効果的です。

< 取組みのアイデア >

- ・子どもも含めたさまざまな人が取り組む地域の防犯マップづくり

○まちなかでの喫煙マナーの向上

駅前周辺は喫煙する場所が指定されているものの守られていないため、より喫煙マナーを向上させるために啓発が必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・決められた場所での喫煙の啓発
- ・路上喫煙禁止区域での喫煙者への罰則の徹底

○緊急時の生活衛生の対策

有事の際の生活衛生に関する対応について、事前に準備しておく必要があります。

< 取組みのアイデア >

- ・大災害時などの遺体の埋葬の対応検討
- ・口蹄疫や鳥インフルエンザなど伝染病などによる家畜処分方法の準備

○危険ドラッグへの対応

市内で危険ドラッグによる危険運転で事故が発生していることから対策検討が課題だと考えます。

< 取組みのアイデア >

- ・危険ドラッグの取り締まり強化

○緊急時における食の安全への対応

緊急時の食物アレルギーへの配慮やアレルギーによるアナフィラキシーショックへの対応など事前に対応を準備することが必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・避難所で配ぜん時の誤配を防ぐために、市民を含めた食物アレルギーに関する啓発
- ・非常食のアレルギー対応の推進
- ・アナフィラキシーショックに対応するための補助治療剤をAEDと同じ場所に設置

○食品に関する市独自の第三者認証

食品の安全を第三者認証の担保がないと信用されない時代です。地域の食品加工業者の競争力を後押しするために、市の保健所で HACCP のような認証を行うことが考えられます。

< 取組みのアイデア >

- ・市保健所での HACCP のような第三者認証

都市整備の推進

人口減少と少子高齢化が進んだ時代にあっても、その状況に即した都市計画や都市交通、住宅、水道、道路整備などに取り組むことが必要です。限られた財源の中で、選択と集中でまちの整備を進めていくことが重要であると考えます。

○まちの集約化の推進

人口規模に見合ったコンパクトなまちへ転換し、合わせて地域間を結ぶ公共交通ネットワークでつながれたまちづくりが必要です。

＜取組みのアイデア＞

- ・まちを集約化し、公共交通ネットワークでつながれたまちづくりの推進

○都市空間の整備

まちなかの魅力の向上や賑わいの創出のために、都市空間の整備に取り組む必要があります。

＜取組みのアイデア＞

- ・穂の国とよはし芸術劇場プラットから駅前大通や名豊ビルへのストリート景観の整備
- ・まちなかに遊び空間を創出するために親水空間を形成
- ・ディズニーランドのようにまちなかの各エリアにテーマ性を付与
- ・商業施設やオフィスへの入居促進
- ・公共交通機関を利用してまちなかに訪れる人を増やすためのインセンティブ制の導入
- ・駅から駅への移動をスムーズにするためのインフラ整備

○歴史的建造物の保存

市内には豊橋市公会堂や愛知大学公館など歴史的建造物があります。景観形成の観点から保存を促進することが必要です。

＜取組みのアイデア＞

- ・市内の歴史的建造物の保存

○利用しやすい医療機関の配置

市民病院やほいっぷにある休日夜間急病診療所は市の西側にあることから東側に同様の施設があると利便性が向上します。

＜取組みのアイデア＞

- ・休日夜間の診療の促進

○屋外広告物の規制の強化

まちの景観を維持するために、屋外広告物の規制を強化することも考えます。

＜取組みのアイデア＞

- ・東三河地域の交通の玄関口としてふさわしい、駅前の広告などの屋外広告物の景観の整備
- ・幹線道路の野立て看板の規制の強化

○まちの電線の地中化

電線が地上にあると、住宅密集地などでは消防活動の妨げになることから、電線の地中化を進めること望ましいと考えます。

＜取組みのアイデア＞

- ・まちの電線地中化の促進

○広小路通りの一時停車帯の確保

広小路通りは30年前に歩道を拡張しましたが、車で来る人がまちなかを訪れやすくなるよう、一時停車帯を整備することを希望します。

＜取組みのアイデア＞

- ・広小路通りの一時停車帯の整備

○郊外地域の公共交通機関の利用促進

過度に車に頼らないためには、郊外地域では公共交通機関の利用促進策が効果的です。

< 取組みのアイデア >

- ・利便性の向上のため、バスに manaca を導入
- ・明海工業団地と渥美線の駅を結ぶバスの運行

○通行しやすい道路の整備

市街地の骨格をつくるための幹線道路の整備と安全安心に配慮した道路の整備を進めることが課題です。

< 取組みのアイデア >

- ・東三河環状線の早期開通
- ・幹線道路の右折レーン帯の確保
- ・安全に配慮した交差点の付替え工事の実施

○自転車の交通安全に関する対策

交通安全を第一に考えた、自転車の利用促進と環境整備が必要だと考えます。

< 取組みのアイデア >

- ・安全で安心して走るための自転車道の整備
- ・子どもたちへ自転車運転免許の交付
- ・公安委員会と協働で、自転車の悪質運転の取り締まりの実施
- ・サイクルアンドライドの推進

○市電の利用促進

過度に車に頼らないまちづくりを進める上で、まちなかと市東部を結ぶ市電の利用促進は大切です。

<取組みのアイデア>

- ・市電の沿線上の利用者ニーズの把握
- ・市電駅周辺の駐輪場の整備
- ・市電を使ってまちなかで買い物することへのインセンティブの付与

○多様な乗り物が使えるまちづくり

乗り物は、小型化や技術革新による新技術の導入などにより、多様化していくことが予想されます。そのような時代の流れに即したまちづくりが必要です。

<取組みのアイデア>

- ・水素ステーション等のインフラ整備
- ・乗り物多様化へのインフラ整備

○民間住宅の活用における居住環境の整備

今後高齢者人口が増えることを見据え、公営住宅だけではなく、民間を含め、高齢者にやさしい居住環境の整備促進が大切です。

<取組みのアイデア>

- ・高齢者向け住宅への補助
- ・在宅介護を念頭に置いた住宅整備

○空家の活用

空家は使い方によっては地域の資源となるため、空家の利活用の検討が必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・空家の利活用のための建築基準法と消防法の規制緩和による改修費用の抑制
- ・自治会レベルでの空家の調査
- ・特定空家の解体後に防火帯や防火水槽を設置するなど利活用を見据えた補助制度の導入

○水道の老朽化の対策

今後起こりうる南海トラフ地震の被害などを防ぐため、水道施設への防災対策が必要です。

< 取組みのアイデア >

- ・水道管及び浄水場や配水場などの処理施設の耐震化

○資源物の有効利用

下水道汚泥から得られる資源を活用し、市の歳入を確保することを考えます。

< 取組みのアイデア >

- ・下水道汚泥からレアメタルの抽出
- ・下水道汚泥などから得られるメタンガスのバイオマス発電の促進

○広報とよはしの配付方法

広報とよはしを市民に広く配布するための検討が大切です。

< 取組みのアイデア >

- ・地域の情報を子育て世代に確実に配布するために、学校での広報とよはしの配布

弾力性のある行政組織

○市民団体による行政評価

現在、市が実施している政策ごとの行政評価を、市民が行政評価に参画することで市民のチェック機能が働くとともに、市民と一緒にになったまちづくりの機運が高まると考えます。

< 取組みのアイデア >

- ・市民による行政評価の実施

○市役所の窓口ワンストップ化

行政の窓口でどこの部署へ行けばよいかわからないことがよくある。まずは総合窓口で相談できるように窓口を整備してほしいと考えます。

< 取組みのアイデア >

- ・市役所の総合窓口の設置

○新しいことをやる課の設置

新しい事業を取り組む際に、縦割りされた行政が事業推進の弊害になることがある。まずは「新しいことをやる課」を設置し、事業を立ち上げたのちに所管課へ移管するのが望ましいと考えます。

< 取組みのアイデア >

- ・「新しいことをやる課」の新設

○市民協働のあり方

市民と一緒に汗をかいて事業を推進する市民協働のあり方について再認識し、市民協働を前提に日々の業務に取り組むことが必要と考えます。

< 取組みのアイデア >

- ・職員向け市民協働に関する研修の実施

その他

○特区を設けたまちづくり

市内一律に政策をあてはめるのではなく、地域特性に応じて特別区域を設け優先的に事業を取り組む方針を基本とすることが望ましいと考えます。

＜取組みのアイデア＞

- ・地域特性に応じた特別区域の設定
- ・特別区域での特定事業の推進

○地域からの予算要求制度の新設

地域の課題を地域自ら解決するために、地域から予算要求制度を新設することが望ましいと考えます。

＜取組みのアイデア＞

- ・地域からの予算要求制度の新設

○子どもを通じた大人への啓発

地域活動への参加など大人に啓発するために、子どもを巻き込み、参加してもらうことで、大人にも参加するよう促進するのが望ましいと考える。

＜取組みのアイデア＞

- ・子ども向けのわかりやすい情報提供についての検討

○インターネットを通じた意見集約

インターネットを通じて、故郷を想う市外に住む豊橋出身者が、外から見た視点で豊橋市に関する意見を集約することを望ましいと考える。

＜取組みのアイデア＞

- ・インターネット版「豊橋市民会議」の開催

○広域的視点による公共施設のあり方検討

人口減少が進む中、財源が限られた中、東三河地域全体で公共施設の配置のあり方を検討することが必要である。

< 取組みのアイデア >

・広域的視点による公共施設のあり方